

令和3年度 東京海洋大学修学支援調査

調査結果報告書

◆調査実施期間
令和3年4月～6月

◆有効回答件数
900件

国立大学法人 東京海洋大学

目次

- ま え が き
- 調査結果の表示について

I 基本的事項について

1-1. 回答者の所属学科、課程または専攻	1
1-2. 回答者の学年	2
1-3. 回答者の性別	2
1-4. 外国人留学生であるか	2

II. 入学について

2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い	3
2-2. 入学の動機	3
2-3. 学部卒業後の大学院への進学又は就職希望について	3

III. 修学関係について

3-1. 大学の教育への満足度	4
(SQ) 大学の教育に不満な理由	4
3-2. 大学の研究指導への満足度	5
(SQ) 大学の研究指導に不満な理由	5
3-3. 授業の出席頻度	6
3-4. 授業に欠席する理由	6
3-5. 学習やレポート作成等に費やす時間	7
3-6. 授業内容が理解できなかった場合の対処	8
3-7. 学内で学習する場として必要な条件	8
3-8. 東京海洋大学の学位授与方針が、入学後現在までに身についたと思うか	8

IV. 学生生活について

4-1. 全体としての学生生活の満足度	9
4-2. 学生生活における大学の対応や支援についての満足度	9
4-3. 大学の窓口対応について	10
4-4. 大学での友人関係は良いと思うか	10
4-5. 自分の1日の生活リズムは規則正しいと思うか	10
4-6. 現在の大学生活で最も大切にしている事	11
4-7. 通信機器（スマートフォンなど）をメールやインターネットで使用する時間	11

V. 通学・居住について

5-1. 回答者が現在住んでいる住居の区分	12
5-2. 賃料から考えての住居の住み心地	12
(SQ) 住居に不満を感じている点	12
5-3. 学生寮について	13

VI. アルバイトについて

6-1. 過去1年間のアルバイト経験	14
6-2. 経験したアルバイトの種類	14
6-3. 1週間のアルバイト従事時間	14

VII. 健康・悩みなどについて

7-1. 自分の健康状況についての認識	15
7-2. 現在抱えている悩みや不安	15
7-3. 悩みや不安が生じたときの相談相手	15
7-4. 制度の利用状況	16

VIII. 大学の経済支援について

8-1. 大学で実施している「授業料免除」の申請について	17
8-2. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金について	17
8-3. 受けている奨学金	17
8-4. 奨学金の月額	18

IX. 課外活動について

9-1. 所属している課外活動団体	19
9-2. サークル等加入の理由・動機	19
9-3. サークル等の1週間あたりの活動時間	20
9-4. サークル等に加入していない理由	20

X. 進路・就職について

10-1. 卒業後に希望する進路	21
10-2. 将来、就職を希望する業種	21
10-3. 就職先を選ぶ際、重視する事	22
10-4. 就職担当窓口を利用しているか、また、そこからの情報提供は十分なものか	23
10-5. 大学外での資格取得等のための通学（ダブルスクール）について	23

XI. 大学への要望について

11-1. 大学の授業に対する要望や意見	24
11-2. 大学の教育や学生生活に対する要望や意見	24

前回(H30年度)調査との比較

表とグラフの例	25
1-3. 回答者の性別	26
2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い	26
3-1. 大学の教育への満足度	27
3-2. 大学の研究指導への満足度	27
3-3. 授業の出席頻度	28
3-4. 授業に欠席する理由	28
3-6. 授業内容が理解できなかった場合の対処	29
4-3. 大学の窓口対応について	29
4-6. 現在の大学生活で最も大切にしている事	30
5-1. 回答者が現在住んでいる住居の区分	30
5-3. 学生寮について	31
6-1. 過去1年間のアルバイト経験	31
6-3. 1週間のアルバイト従事時間	31
8-1. 大学で実施している「授業料免除」の申請について	32
8-2. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金について	32
8-4. 奨学金の月額	32
9-1. 所属している課外活動団体	33
9-2. サークル等加入の理由・動機	33
10-1. 卒業後に希望する進路	34
10-3. 就職先を選ぶ際、重視する事	35
11-1. 大学の授業に対しての要望や意見	36
11-2. 大学の教育や大学生活に対しての要望や意見	37

■ あ と が き

ま え が き

東京海洋大学修学支援調査は、アンケートにより本学学生の皆さんの学習、生活、居住環境、課外活動等の状況や大学への要望を把握し、修学環境や学生支援の充実および改善に役立てるための取り組みを構築する上での重要な情報を収集することを目的としています。体系的に調査データを蓄積し、分析することにより、学生や大学が抱える問題を明らかにし大学側の対応策を考えることが可能になります。

本学では3年ごとに修学支援調査を行っておりますが、今回ははじめてホームページを利用してフォームに入力して頂く形式により、日本語および英語でのアンケートを実施しました。これは、学生がいつでもどこからでも回答できるようにすることで、今まで以上に留学生の状況や要望などを正しく把握することを目指したものです。

多くの学生の皆さんのご協力のおかげで、学生生活の様々な場面での実態や現状を把握する上での貴重な情報を得ることができ、自由記述形式の回答からは本学に対する要望や意見を具体的に知ることができました。

この報告書では、個人情報の取り扱いに配慮し、調査結果をグラフ形式での整理、質問項目ごとの分析結果を示しています。皆さんのひとりひとりが充実したキャンパスライフを実感できるように、この調査報告を役立てていただければと願っております。

今回の調査実施にあたり、調査を担当された学生支援委員会学生広報・修学支援調査小委員会の委員ならびに学務部の事務担当者、ご協力をいただいた先生方、調査の趣旨を理解して回答に協力してくれた学生の皆さんなど、関係者のご協力とご尽力に心から感謝いたします。

令和4年3月

学生支援委員会委員長

理事・副学長（学生支援・広報担当） 庄司 るり

調査結果の表示について

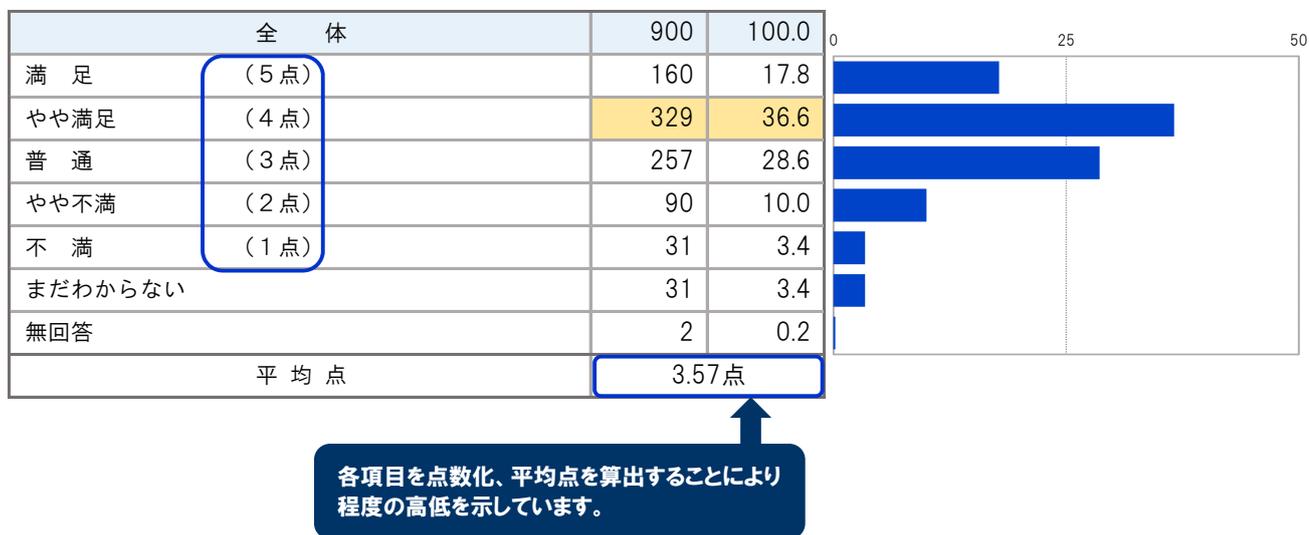
調査結果は、以下の様な表とグラフを用いて表紙しています。

2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い



※複数回答を認めている場合、構成比(%)の合計が100%を超える事があります。

3-1. 大学の教育への満足度



I. 基本的な事項について

1-1. 回答者の所属学科、課程または専攻

紙を使って実施していたこれまでの調査に比べ、webで行った今回は大幅に回答数が下がった。これは、実施方法がwebになったためとも捉えられるが、オリエンテーションや授業中に時間を取って回答をお願い出来た前回までの学生側の回答への動機付けが弱かったことが大きいと思われる。大学生活に慣れた大学院生で回答率が特に低いこともこのことを反映していると思われる。海事システム工学と海洋電子機械工学の両学科で回答率が前回より高く、先生方の依頼方法が良かったと思われる。

全 体	900	100.0	0	25
海洋生物資源学科	107	11.9		
食品生産科学科	99	11.0		
海洋政策文化学科	48	5.3		
海洋環境学科(※)	3	0.3		
海事システム工学科	116	12.9		
海洋電子機械工学科	108	12.0		
流通情報工学科	68	7.6		
海洋環境科学科	98	10.9		
海洋資源エネルギー学科	71	7.9		
航海課程	3	0.3		
機関課程	0	0.0		
海洋船舶運航システム学専攻	3	0.3		
海洋生命資源科学専攻	19	2.1		
食機能保全科学専攻	27	3.0		
海洋資源環境学専攻	28	3.1		
海洋管理政策学専攻	13	1.4		
海洋システム工学専攻	16	1.8		
海運ロジスティクス専攻	30	3.3		
食品流通安全管理専攻	3	0.3		
海洋生命科学専攻(※)	0	0.0		
海洋環境保全学専攻(※)	0	0.0		
応用生命科学専攻	18	2.0		
応用環境システム学専攻	21	2.3		
無回答	1	0.1		

※平成28年以前入学者

学部・学区・博士課程ごとの合計

全 体	900	100.0	0	50
海洋生命科学部・海洋科学部 計	257	28.6		
海洋工学部 計	292	32.4		
海洋資源環境学部 計	169	18.8		
乗船実習科 計	3	0.3		
海洋科学専攻科 計	3	0.3		
大学院博士前期課程 計	136	15.1		
大学院博士後期課程 計	39	4.3		
無回答	1	0.1		

1-2. 回答者の学年

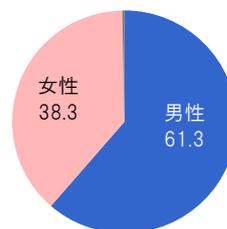
前は学部生に関しては学年によらず回答数にそれほど差がなかったが、今回は1年生が有意に多い。入学して間もない1年生は依頼に素直に対応してくれていることがわかる。

全 体	900	100.0	
学部1年	214	23.8	
学部2年	193	21.4	
学部3年	153	17.0	
学部4年	158	17.6	
実習科1年	3	0.3	
専攻科1年	3	0.3	
博士前期課程1年	76	8.4	
博士前期課程2年	59	6.6	
博士後期課程1年	18	2.0	
博士後期課程2年	5	0.6	
博士後期課程3年	15	1.7	
無回答	3	0.3	

1-3. 回答者の性別

本学入学者の男女比を反映。無回答の理由がわからないがジェンダーの問題から今後は性別を問う質問は控えた方が良くかも知れない。前回も無回答の比率は今回とほぼ同じ0.4%であった。

全 体	900	100.0
男 性	552	61.3
女 性	345	38.3
無回答	3	0.3



1-4. 外国人留学生であるか

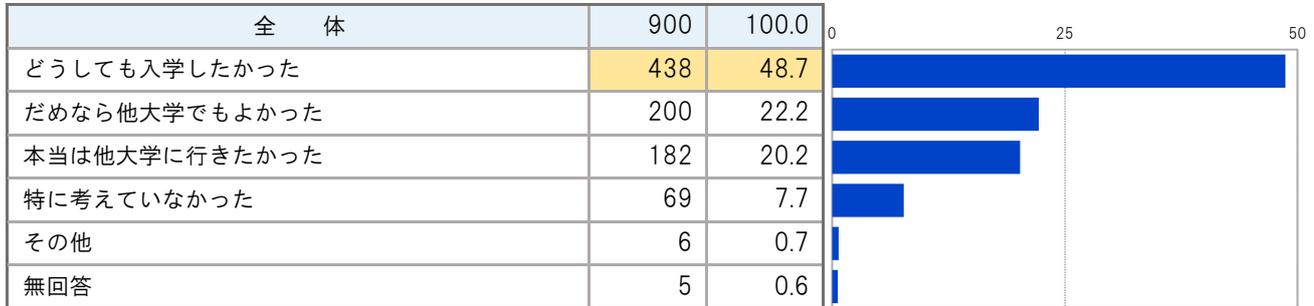
前回に比べ外国人留学生の回答率が下がった。これは、コロナ禍で留学生が減ったため？ また、無回答の比率が減っている。

全 体	900	100.0	
私費外国人留学生である	44	4.9	
国費外国人留学生である	23	2.6	
外国人留学生ではない	769	85.4	
無回答	64	7.1	

II. 入学について

2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い

前回とほぼ変わらない傾向で、約半数が本学を第一希望としていた。わずかであるが「特に考えていなかった」割合が下がり「だめなら他大学で良かった」割合が上がっている。



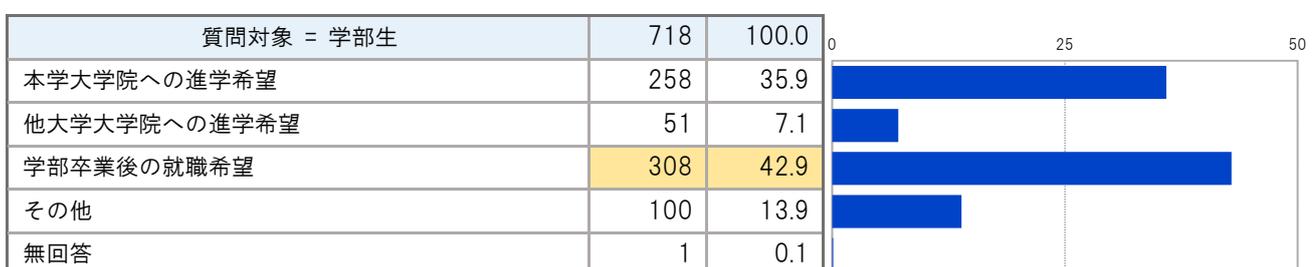
2-2. 入学の動機〔教育・研究面／経済面 それぞれ2つまで回答可〕

前回と傾向は変わらないが、「自分の志望した研究分野があったから」「将来の進路を考えて」と回答した割合がわずかに増加した。また、「入学料・授業料が安いから」と、「東京に立地しているから」と考える学生の割合も前回に比べ少し増加した。



2-3. 学部卒業後の大学院への進学又は就職希望について

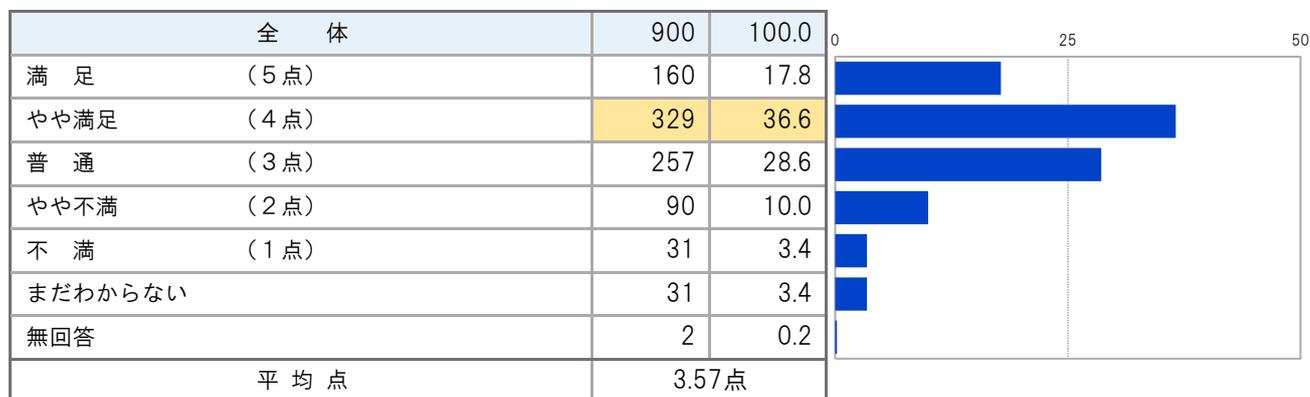
卒業後は就職を希望する学生が最も多いが、その割合は前回調査(45.3%)よりわずかに減少し、代わりに本学大学院への進学希望者が増加した(29.9→35.9%)。また、前回無回答が3.6%と多かったが、今回の調査では1名だけだった。



Ⅲ. 修学関係について

3-1. 大学の教育への満足度

「やや満足」が最も多く、次いで「普通」と答えた学生が多い。傾向は前回とほぼ同様であるが「満足」「普通」と答えた学生の割合が若干減少し、「やや満足」の割合がその分増加した。不満と感じている理由としては、今回際だって「その他」と答えた学生が多かった。その内容はCOVID-19対策に関連したオンライン授業の増加を不満に感じるものが非常に多く見られた。



SQ. 大学の教育に不満な理由



3-2. 大学の研究指導への満足度

「満足」「やや満足」と答えた学生が7割を超える。前回調査よりわずかに増加した。一方、不満な理由としては「指導が不足している」と答えた学生が最も多い点は前回と同様であるが、「その他」の割合も増加した。「その他」と答えた学生はCOVID-19に関連した入構制限や実験室の使用制限を理由に挙げたものが目立つが、本学の設備の不足や教員の指導方法への不満もあった。

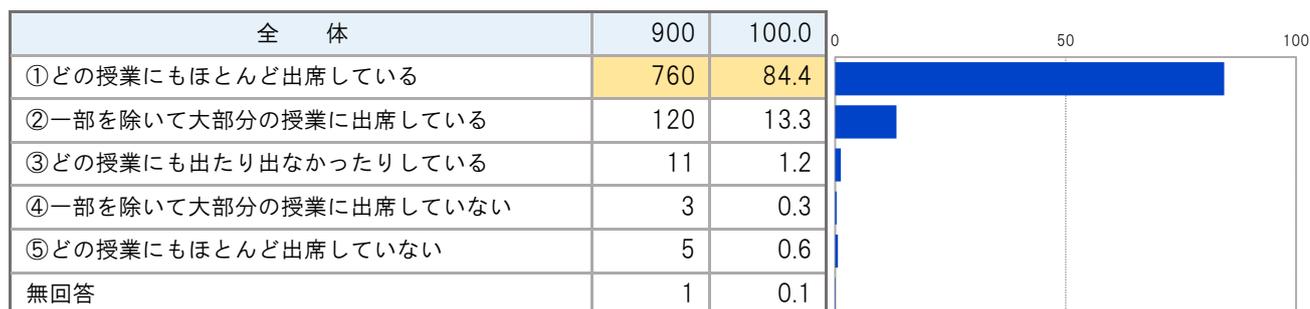
質問対象 = 学部4年生・大学院学生		333	100.0	
満足 (5点)	133	39.9		
やや満足 (4点)	104	31.2		
普通 (3点)	64	19.2		
やや不満 (2点)	13	3.9		
不満 (1点)	5	1.5		
まだわからない	13	3.9		
無回答	1	0.3		
平均点		4.09点		

SQ. 大学の研究指導に不満な理由

3-2. 大学の研究指導への満足度 = やや不満、不満		18	100.0	
自分が考えていた進路や希望するテーマとは違っていた	2	11.1		
魅力的な研究・興味のある研究がない	1	5.6		
研究の進め方について指導が不足している	9	50.0		
研究の進め方について自分で考える余地がない	0	0.0		
研究以外の内容が多い	0	0.0		
その他	6	33.3		
無回答	0	0.0		

3-3. 授業の出席頻度

「①どの授業にもほとんど出席している」が最大となっている点は前回調査と同じであるが、今回、②、③と答えた学生の割合が少し減少し、①と答えた学生の割合が増加した。実際の対面講義はほとんど行われていないため、オンライン授業で通学時間が不要になったことが出席率の増加に繋がった可能性もある。



3-4. 授業に欠席する理由〔2つまで回答可〕

「授業に魅力がない」が最も理由として多い点は前回同様である。今回の調査では「その他」と「必要な単位をほとんど取得したため」と答えた学生が増加した。「その他」と答えた学生は6名で、理由は様々であった。なお、「経済的な理由のため」を挙げた学生が前回0人だったが、今回は1名いた。



3-5. 学習やレポート作成等に費やす時間（1日の平均時間）

学習やレポート作成に1日平均して1時間以上の時間をかけている学生が前回の調査より増加したが、未だ2時間未満の割合が最も多い。授業のオンライン化で予習・復習にかけている時間とオンラインの講義を見ている時間を明瞭に切り分け出来ていない可能性もあるが、1日あたりの学習時間は増加したと感じている学生が増えていることが垣間見られる。

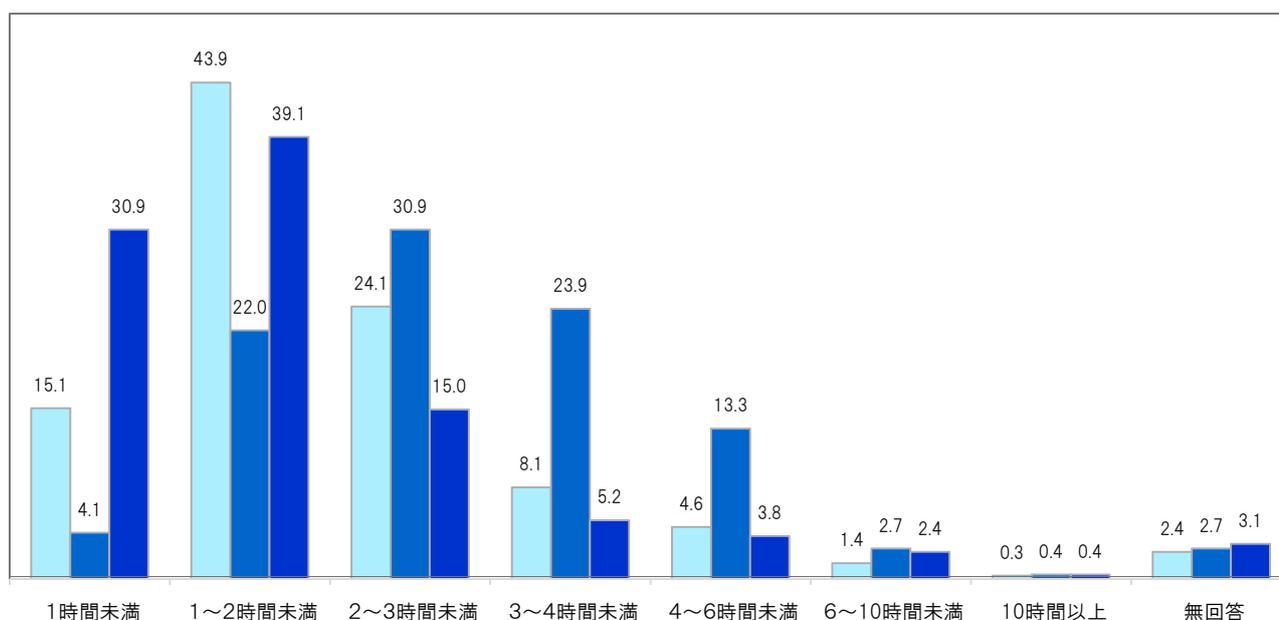
①授業の予習・復習 ※実験・実習の準備時間等を含む

②課題やレポート作成 ※休業期間中も含む

③大学の授業と関係のない学習

※ 質問対象者数 = 900

	①授業の予習・復習		②課題・レポート作成		③大学外の学習	
1時間未満	136	15.1	37	4.1	278	30.9
1～2時間未満	395	43.9	198	22.0	352	39.1
2～3時間未満	217	24.1	278	30.9	135	15.0
3～4時間未満	73	8.1	215	23.9	47	5.2
4～6時間未満	41	4.6	120	13.3	34	3.8
6～10時間未満	13	1.4	24	2.7	22	2.4
10時間以上	3	0.3	4	0.4	4	0.4
無回答	22	2.4	24	2.7	28	3.1
平均時間	1.6時間		2.5時間		1.3時間	
最大値	12時間		14時間		18時間	



3-6. 授業内容が理解できなかった場合の対処〔2つまで回答可〕

「先輩・友人などに教わる」「参考書・インターネットで調べる」の回答がいずれも7割を超え、この2つの回答は昨年より増加している。対面での授業が減った割には他人に聞くと答えた学生が多い。インターネットの利用も大幅に前回より増加した。

全体	900	100.0	0	50	100
講義中あるいは後で教員に質問する	203	22.6			
先輩・友人などに教わる	637	70.8			
参考書・インターネットなどで調べる	726	80.7			
学生支援教員、学年担当に相談する	3	0.3			
オフィスアワー制度を利用し、授業担当教員に相談する	4	0.4			
指導教員に相談する	18	2.0			
その他	13	1.4			
無回答	3	0.3			

3-7. 学内で学習する場として必要な条件〔いくつでも回答可〕

「一人で集中して学習出来る場」が最も求められている点など傾向は前回と同様であるが、上から5つ目までの項目でポイントが増加した。

全体	900	100.0	0	50	100
一人で集中して学習できる場	665	73.9			
複数で会話しながら学習できる場	438	48.7			
参考書など必要な文献が利用できる場	447	49.7			
パソコンが利用できる場	447	49.7			
休日や早朝・深夜も利用できる場	478	53.1			
飲食ができる場	301	33.4			
その他	28	3.1			
無回答	4	0.4			

3-8. 東京海洋大学の学位授与方針が、入学後現在までに身についたと思うか

⑤以外で「そう思う」「ややそう思う」と答えた学生が60%を越えた。前回は③の項目で「どちらでもない」が最も多かったが、この項目も改善した。⑤は前回と同様で「どちらでもない」と答えた学生が最も多かった。

	件数	(5点) 思う	(4点) ややそう思う	(3点) どちらでもない	(2点) あまりそう思わない	(1点) そう思わない	無回答	平均点
① 海洋の科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示、実践する能力	900 100.0	205 22.8	377 41.9	174 19.3	99 11.0	42 4.7	3 0.3	3.67
② 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感を持って行動する能力	900 100.0	202 22.4	414 46.0	189 21.0	57 6.3	35 3.9	3 0.3	3.77
③ 現代社会の諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力	900 100.0	155 17.2	367 40.8	226 25.1	112 12.4	35 3.9	5 0.6	3.55
④ 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門知識・技術による課題探究、問題解決能力	900 100.0	204 22.7	393 43.7	189 21.0	72 8.0	35 3.9	7 0.8	3.74
⑤ 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養	900 100.0	135 15.0	266 29.6	275 30.6	140 15.6	77 8.6	7 0.8	3.27

IV. 学生生活について

4-1. 全体としての学生生活の満足度

満足している学生が半数を超えており、不満のある学生は少ない。満足感に何が最も貢献するのか、他のアンケートとの相関などを検討する必要がある。3-1とほぼ同じ分布を示しているため、全体としての満足度はほぼ教育への満足度であるといえるかもしれない。

全 体		900	100.0	0 25 50	
満 足	(5点)	204	22.7		
やや満足	(4点)	336	37.3		
普 通	(3点)	221	24.6		
やや不満	(2点)	88	9.8		
不 満	(1点)	28	3.1		
無回答		23	2.6		
平均点		3.68点			

4-2. 学生生活における大学の対応や支援についての満足度(1～7位の順位で回答)

順位付けであって良し悪しではない。①教育・修学の1位の割合が最大となっているのは、学生が必ず受けるサービスであり、意識しているからであると思われる。一方で経済状況に対する満足度が高いのはなぜなのか。そんなに多くの学生が経済的な支援を受けているのか。また、満足している学生の順位付けと不満がある学生のそれでは意味が異なると思われ、4-1の結果との関係性を検討する必要がある。

	件数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	無回答
①教育・修学	900 100.0	318 35.3	173 19.2	119 13.2	87 9.7	73 8.1	44 4.9	33 3.7	53 5.9
②学生支援	900 100.0	67 7.4	143 15.9	119 13.2	134 14.9	113 12.6	145 16.1	121 13.4	58 6.4
③経済状況	900 100.0	138 15.3	158 17.6	127 14.1	123 13.7	127 14.1	104 11.6	69 7.7	54 6.0
④居住環境	900 100.0	131 14.6	97 10.8	97 10.8	133 14.8	115 12.8	119 13.2	149 16.6	59 6.6
⑤健康・悩み	900 100.0	50 5.6	60 6.7	112 12.4	114 12.7	203 22.6	173 19.2	130 14.4	58 6.4
⑥課外活動	900 100.0	94 10.4	105 11.7	108 12.0	119 13.2	99 11.0	133 14.8	185 20.6	57 6.3
⑦進路・就職	900 100.0	108 12.0	125 13.9	142 15.8	134 14.9	103 11.4	96 10.7	135 15.0	57 6.3

4-3. 大学の窓口対応について

前年より少し満足度が高まっている。4-1に比較して「普通」とする回答が多いことは、全体的な満足度にあまり考慮していない学生が多いことを意味すると思われる。これは学生の窓口の利用頻度と関係があると思われる。

全 体		900	100.0	0	25	50
満 足	(5点)	175	19.4	[Bar chart showing 19.4%]		
やや満足	(4点)	212	23.6	[Bar chart showing 23.6%]		
普 通	(3点)	325	36.1	[Bar chart showing 36.1%]		
やや不満	(2点)	118	13.1	[Bar chart showing 13.1%]		
不 満	(1点)	69	7.7	[Bar chart showing 7.7%]		
無回答		1	0.1	[Bar chart showing 0.1%]		
平均点		3.34点				

4-4. 大学での友人関係は良いと思うか

分布が単調に減少しており、4-1の分布と形がだいぶ異なる。友人関係は大学の満足度とは別と捉えている部分があるだろう。

全 体		900	100.0	0	25	50
そう思う	(5点)	382	42.4	[Bar chart showing 42.4%]		
ややそう思う	(4点)	312	34.7	[Bar chart showing 34.7%]		
どちらでもない	(3点)	136	15.1	[Bar chart showing 15.1%]		
あまりそう思わない	(2点)	50	5.6	[Bar chart showing 5.6%]		
そう思わない	(1点)	18	2.0	[Bar chart showing 2.0%]		
無回答		2	0.2	[Bar chart showing 0.2%]		
平均点		4.10点				

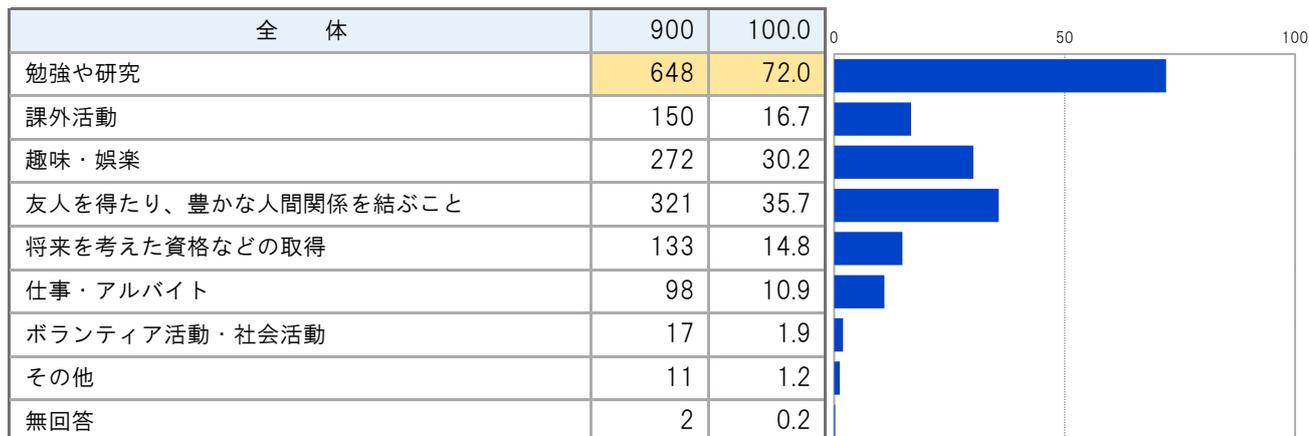
4-5. 自分の1日の生活リズムは規則正しいと思うか

4-1とは異なる分布となっており、つまり、大学の修学時間のために生活リズムが悪いわけでもない、という認識なのかと思う。アルバイト(6)、課外活動(10)、学習(3)との関係性を検討する必要がある。

全 体		900	100.0	0	25	50
そう思う	(5点)	150	16.7	[Bar chart showing 16.7%]		
ややそう思う	(4点)	274	30.4	[Bar chart showing 30.4%]		
どちらでもない	(3点)	138	15.3	[Bar chart showing 15.3%]		
あまりそう思わない	(2点)	229	25.4	[Bar chart showing 25.4%]		
そう思わない	(1点)	106	11.8	[Bar chart showing 11.8%]		
無回答		3	0.3	[Bar chart showing 0.3%]		
平均点		3.15点				

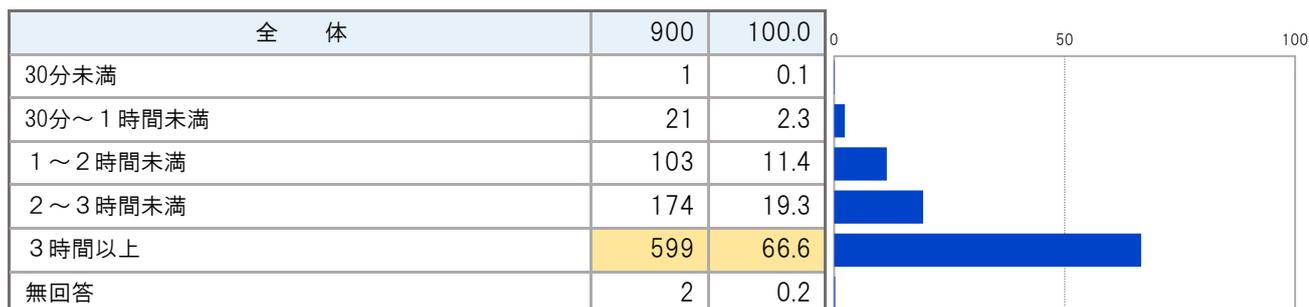
4-6. 現在の大学生生活で最も大切にしている事〔2つまで回答可〕

勉強や研究を重視する学生が600名以上と突出して多い(2つまで回答可ではあるが)。4-1の回答で「満足」が最大に至らないのは、勉強や研究を重視する学生の中に、教育・修学の満足度が足りていない学生が少なからずいるということであろう。



4-7. 通信機器(スマートフォンなど)をメールやインターネットで使用する時間(1日の平均時間)

リモート講義を受けていればインターネットの利用は3時間では済まないと思う。この設問はスマートフォンのみの使用時間なのか。設問が曖昧で様々な受け取り方をした学生がいる可能性がある。



V. 通学・居住について

5-1. 回答者が現在住んでいる住居の区分

前回より自宅学生が少し増加しているのはリモート講義が原因だろうか。

全 体	900	100.0	
①自 宅	497	55.2	
②自宅外（賃貸マンション・アパート）	203	22.6	
③自宅外（学生寮、国際交流会館、借上寮）	187	20.8	
④自宅外（その他）	13	1.4	
無回答	0	0.0	

5-2. 賃料から考えての住居の住み心地

多くの学生が満足しており、一方で、4-2では⑦居住環境が7位とした回答が最大となっている。SQの回答数も少なく、不満があるのは自宅学生なのかもしれない。

5-1. 現在の住居区分 = 自宅外(②~④)を回答	403	100.0	
満足している (5点)	196	48.6	
どちらかという満足している (4点)	120	29.8	
どちらともいえない (3点)	46	11.4	
どちらかという不満である (2点)	26	6.5	
不満である (1点)	15	3.7	
無回答	0	0.0	
平均点	4.13点		

SQ. 住居に不満を感じている点〔2つまで回答可〕

5-2. 住み心地…どちらかという不満、不満	41	100.0	
部屋が狭い	20	48.8	
通学に不便	6	14.6	
家賃が高い	19	46.3	
施設が充実していない	8	19.5	
その他	12	29.3	
無回答	0	0.0	

5-3. 学生寮について

入寮している学生と同程度の入寮を希望する学生がいることがわかった。これは、4-2で⑦居住環境が7位とした回答が最大となっているのが、自宅学生には少なくない数の入寮希望者がいて、入寮できない不満をもっていることを示しているのかもしれない。寮を増やせないなら、自宅学生の不満を調べ、別の解決を模索できないだろうか。



Ⅵ. アルバイトについて

6-1. 過去1年間のアルバイト経験

アルバイトをした学生はわずかに減っている。コロナ禍の影響か。

全体	900	100.0	
①継続的(1か月以上)にアルバイトをした	501	55.7	
②臨時(1か月未満)にアルバイトをした	83	9.2	
③継続的アルバイトと臨時アルバイトをどちらもした	60	6.7	
④しなかった	256	28.4	
無回答	0	0.0	

6-2. 経験したアルバイトの種類〔2つまで回答可〕

販売・飲食は学生アルバイトの定番ではあるし、そうした経験も重要かもしれないが、自らの専門性に沿った賃金の高い働き方をできないものかと思う。

6-1.過去1年間のアルバイト経験 = ①～③を回答	644	100.0	
家庭教師や塾の講師	171	26.6	
販売・サービス(コンビニの店員等)	192	29.8	
飲食業	274	42.5	
事務	33	5.1	
重労働(土木・建設作業等)	22	3.4	
配送業	44	6.8	
大学の教育(TA・RA・研究補助など)	36	5.6	
その他	71	11.0	
無回答	0	0.0	

6-3. 1週間のアルバイト従事時間(往復の時間を含む)

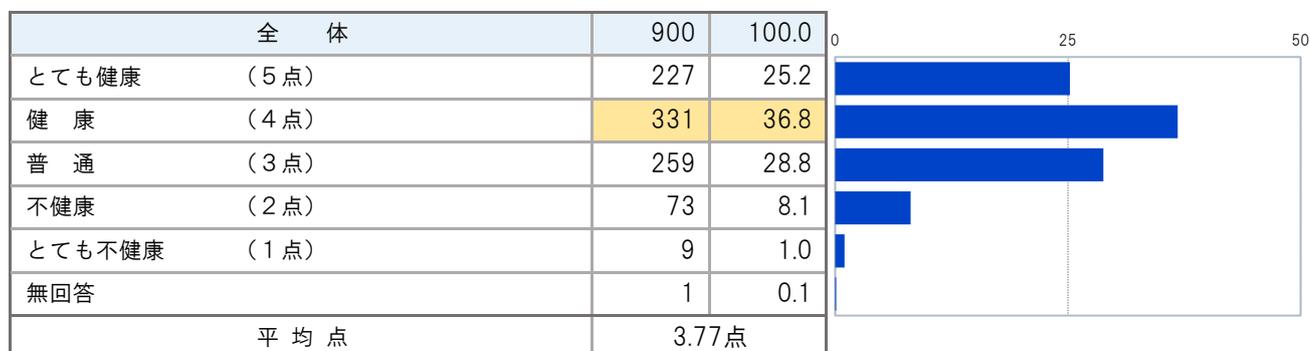
1日1時間以上アルバイトをしている学生が多い。3-5との関係性を知りたいところである。3-5の平均学習時間は5.4時間で、追加で1時間以上というのは、講義を受けた上で可能なのか。

6-1.過去1年間のアルバイト経験 = ①～③を回答	644	100.0	
5時間未満	92	14.3	
5～10時間未満	223	34.6	
10～20時間未満	229	35.6	
20～30時間未満	71	11.0	
30～40時間未満	15	2.3	
40時間以上	8	1.2	
無回答	6	0.9	

VII. 健康・悩みなどについて

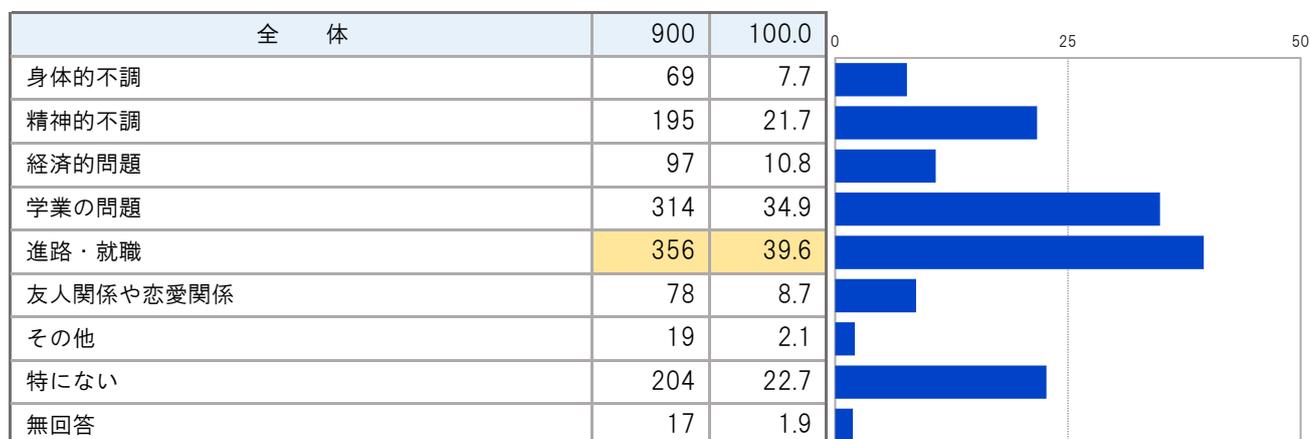
7-1. 自分の健康状況についての認識

自分の健康状況について「健康」と認識しているものが36.8%、「とても健康」が25.2%であり、「普通」を加えるとほぼ9割の学生が健康状況に大きな不安を抱えていないと言える。前回調査と比べると、「不健康」8.1%、「とても不健康」1.0%と感じているものが少なくなっていることから、コロナ禍となって、健康に気を付けているとも言えるが、大きな変化とは言えない。



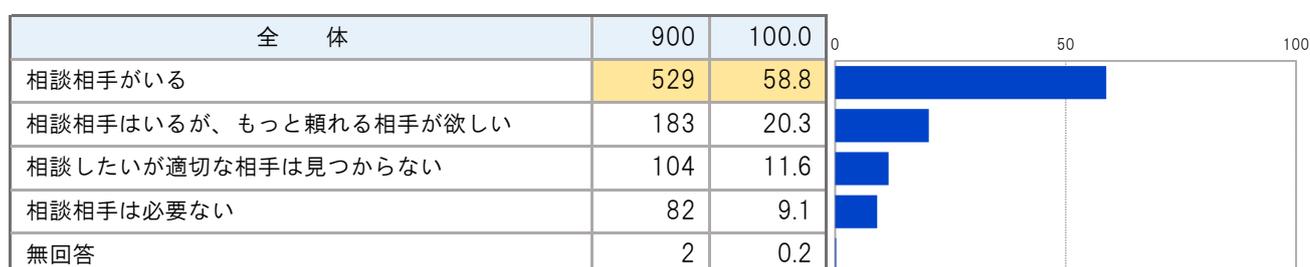
7-2. 現在抱えている悩みや不安〔2つまで回答可〕

就職進路に関する悩みが39.6%と最も多いが、卒業後に希望する進路に関して前回調査の回答(11-1)と比べて、大学院進学が上昇していることから、就職に対する不安が高くなったのではないかと推察される。次に割合の高い学業の問題(34.9%)、精神的不調(21.7%)は、前回調査から大きく増加・変化した点であり、授業体制をはじめとしたコロナ禍での大学生活に大きな不安要素をもっていること、大学院進学への増加とも関係があるのではないかと推察される。



7-3. 悩みや不安が生じたときの相談相手

相談相手がいるものは58.8%と最も高いが、前回調査62.5%と比べると低い値となっている。「もっと頼れる相手欲しい」20.3%、「相手が見つからない」11.6%は、ともに増加しており、相談相手を必要としている適切な相手が見つからないと言える。コロナ禍で人との接触が少なくなったことも背景にあると思われるが、学生相談が利用しづらいといくつかの自由記述もみられることから、それらの声を拾い、改善を検討する必要もある。



7-4. 制度の利用状況

7-3のコメントにもあるが、学生相談室の利用に関する自由意見をあらためて問う必要もあるかも知れない。利用する意欲がないという学生割合と上述の適切な相手がいないという学生がリンクしているようにもみられる。学生意見箱、相談窓口の存在を知らない学生が約半数ということから、周知方法、設置方法、形態(ネットの活用)の改善・検討が必要。

	件数	利用したことがある	利用したことがない	利用したいが、必要ない	利用したいが、必要ない	知らない	無回答
①保健管理センターの健康相談	900 100.0	79 8.8	493 54.8	90 10.0	231 25.7	7 0.8	
②学生相談室の学生生活に関する悩みなどの相談	900 100.0	53 5.9	537 59.7	113 12.6	186 20.7	11 1.2	
③学生意見箱	900 100.0	5 0.6	323 35.9	69 7.7	494 54.9	9 1.0	
④なんでも相談窓口	900 100.0	12 1.3	353 39.2	63 7.0	462 51.3	10 1.1	

Ⅷ. 大学の経済支援について

8-1. 大学で実施している「授業料免除」の申請について

「知っているが、申請したことがない」ものが67.1%となっており、前回調査(63.7%)よりも若干増加している。申請したことがないという学生にも、その理由を問うことが必要。その上で、場合によっては制度の見直しが必要か。

全体	900	100.0	
申請したことがある	193	21.4	
知っているが、申請したことがない	604	67.1	
申請制度を知らない	99	11.0	
無回答	4	0.4	

8-2. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金について

「受けていない」ものが69.8%となっているが、前回調査68.1%に比べ微増しているが、全体的に大きな変化はないと言える。

全体	900	100.0	
受けている	219	24.3	
受けていない	628	69.8	
過去に受けたことがある	52	5.8	
無回答	1	0.1	

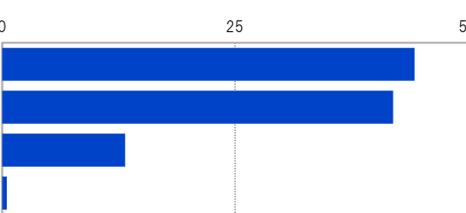
8-3. 受けている奨学金

「日本学生支援機構第1種奨学金」46.6%、「日本学生支援機構第2種奨学金」27.9%、「日本学生支援機構給付奨学金」22.4%の順になっている。このうち、前回(1.6%)に比べ、「日本学生支援機構給付奨学金」の割合が大きく増加した。民間からの奨学金において、返還の有無、学生支援機構奨学金免除(全学、半額)の採択割合との対比なども合わせて分析する必要がある。

8-2. 奨学金 = 受けている	219	100.0	
日本学生支援機構第1種奨学金	102	46.6	
日本学生支援機構第2種奨学金	61	27.9	
日本学生支援機構給付奨学金	49	22.4	
民間奨学金団体・地方公共団体の奨学金	19	8.7	
日本学術振興会からの研究奨学金(給与)等	1	0.5	
公的機関等の外国人留学生対象の奨学金	19	8.7	
その他	10	4.6	
無回答	3	1.4	

8-4. 奨学金の月額

5万円未満が最も多くなっているが、前回では「5～10万円未満」がもっとも高くなっており、月額の低下が見られる。この出所が上記奨学金の種類のとれに相当するのか分析が必要。

8-2. 奨学金 = 受けている	219	100.0	0	25	50
5万円未満	97	44.3			
5～10万円未満	92	42.0			
10万円以上	29	13.2			
無回答	1	0.5			

IX. 課外活動について

9-1. 所属している課外活動団体〔2つまで回答可〕

34%の学生がサークルに加入していると回答。昨年度の29%と微増であった。学外サークルは4.1%であり、ほとんどの学生が学内サークルの所属であった。内訳は前回調査と比較しても大きな変化は見られなかった。

全 体	900	100.0	0	25	50
①大学公認の運動系サークル	323	35.9			
②大学公認の文化系サークル	304	33.8			
③非公認の学内サークル	75	8.3			
④学外のサークル	37	4.1			
⑤加入していない	306	34.0			
無回答	0	0.0			

9-2. サークル等加入の理由・動機〔2つまで回答可〕

「友人が欲しいから」が昨年度と比較し13.0%増加していた。オンライン授業等の影響で学生同士が大学で顔を合わせる機会が減少しており、サークルに友人を求めている可能性が考えられる。

9-1. 課外活動団体への所属 = ①～④を回答	594	100.0	0	25	50
友人が欲しいから	292	49.2			
知識・教養・技術を習得するため	127	21.4			
健康増進になるから	93	15.7			
興味があるから	292	49.2			
団体生活・社会性を身につけられるから	41	6.9			
レクリエーションとして	57	9.6			
就職に有利になるから	28	4.7			
高校時代からの継続として	79	13.3			
先輩・友人・親に勧められたから	37	6.2			
伝統があるから	5	0.8			
資格を得るため	3	0.5			
その他	12	2.0			
無回答	2	0.3			

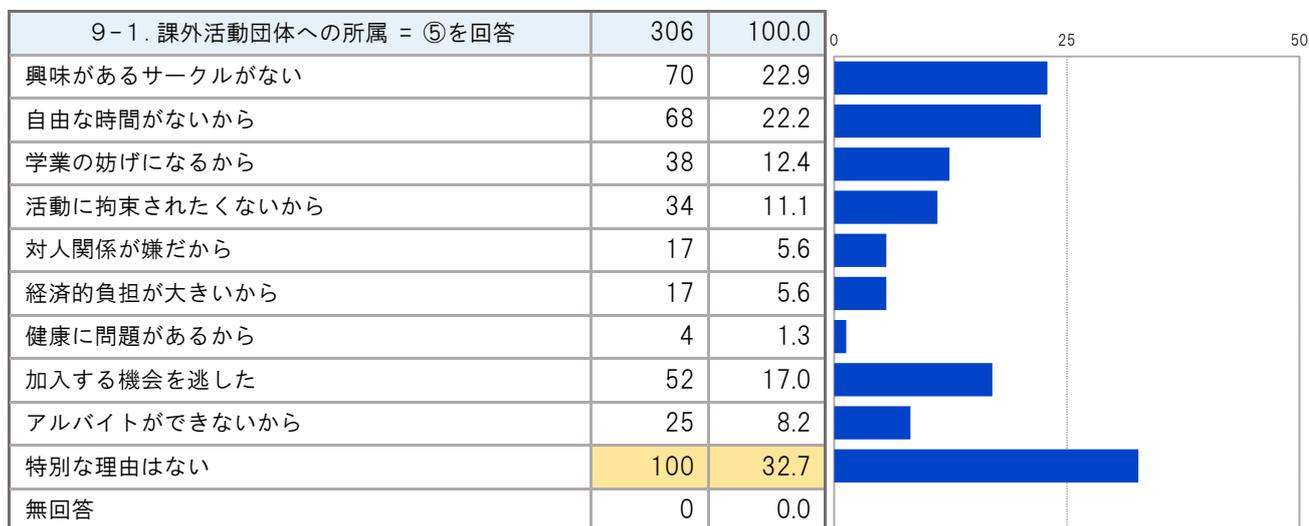
9-3. サークル等の1週間あたりの活動時間

約70%が5時間未満であった。前回調査との比較はなし。



9-4. サークル等に参加していない理由〔2つまで回答可〕

理由がある場合は 1.興味があるサークルがない、2.自由な時間がない、3.加入する機会を逃したの順で理由が挙げられた。こちらは前回調査との比較がなかった。3はコロナ禍により活動時間が制限されたことが影響していると考えられるため、今後同様の調査があった場合どのように推移するかを見る必要がある。



X. 進路・就職について

10-1. 卒業後に希望する進路

88%以上がフルタイムの就職か進学であった。前回調査と比較してフルタイムの就職が7%低下し、進学が10%増加した。コロナ禍における経済状況が進学率に大きく影響している可能性も考えられる。

全 体	900	100.0	0	50	100
フルタイムの就職・就業（会社員・公務員・自営業など）	488	54.2			
パートタイムの就業（フリーターなど）	3	0.3			
専業主婦や専業主夫	2	0.2			
進学（大学院・専門学校・留学など）	306	34.0			
その他	20	2.2			
まだ考えていない	80	8.9			
無回答	1	0.1			

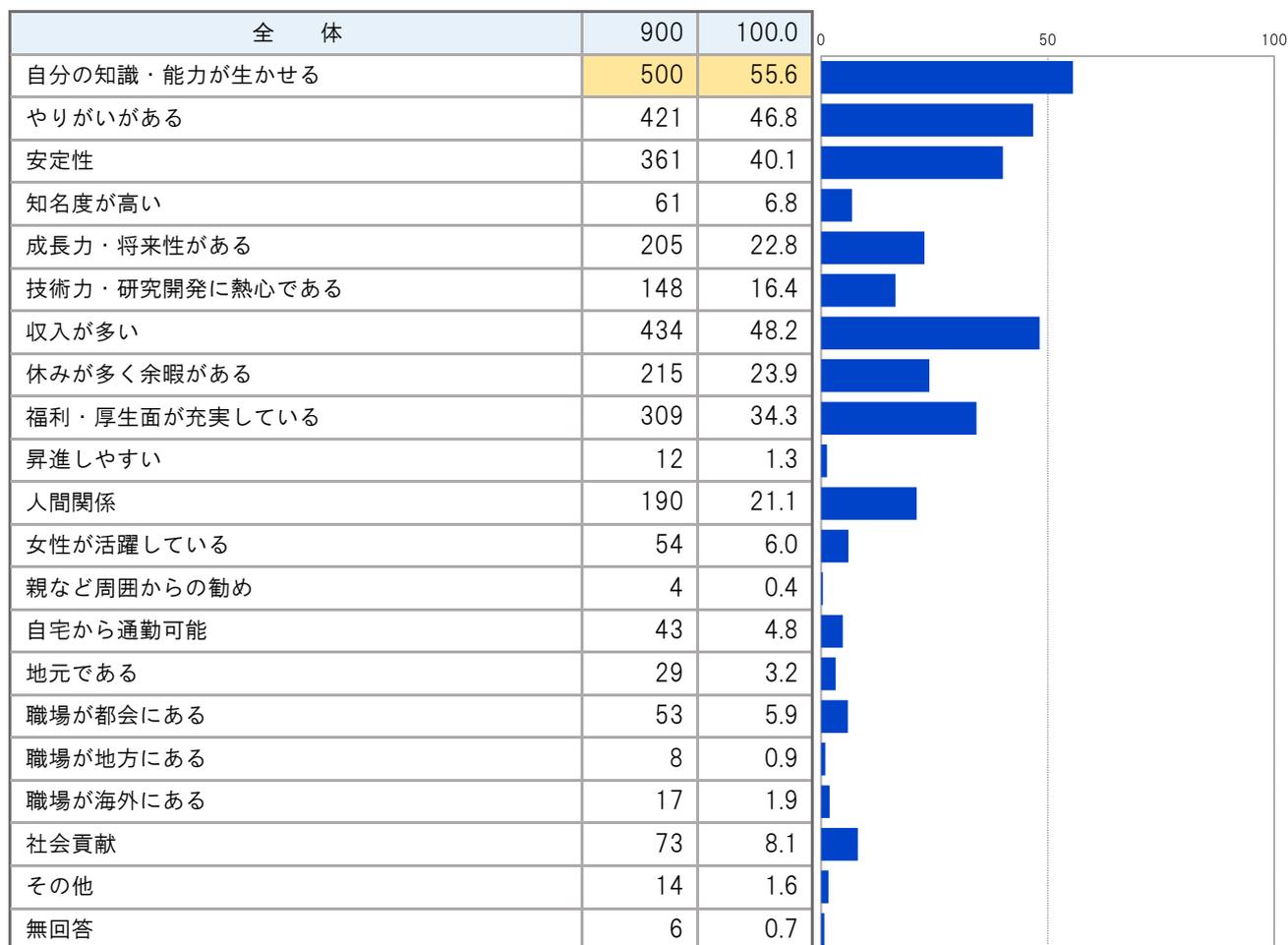
10-2. 将来、就職を希望する業種

希望業種として高い順に①学術研究②会場職員・船舶職員③製造業④公務員⑤漁業・養殖業であった。公務員に水産職があることも踏まえると、海洋、水産、船舶に関連する希望が極めて高いことが見て取れた。またこちらは前回調査との比較はなし。

全 体	900	100.0	0	25
農業・林業	11	1.2		
漁業・養殖業	69	7.7		
海上職員・船舶職員	150	16.7		
建設業	7	0.8		
製造業	112	12.4		
電気・ガス・水道業	23	2.6		
情報通信業	51	5.7		
運輸業、郵便業	37	4.1		
卸売業、小売業	17	1.9		
金融業、保険業	8	0.9		
鉱 業	3	0.3		
学術研究、専門・技術サービス業	164	18.2		
宿泊業、飲食サービス業	8	0.9		
生活関係サービス業、娯楽業	20	2.2		
教育・学習支援業	17	1.9		
医療、福祉	6	0.7		
複合サービス事業	3	0.3		
サービス業	27	3.0		
不動産業、物品賃貸	1	0.1		
公務員	97	10.8		
その他	56	6.2		
無回答	13	1.4		

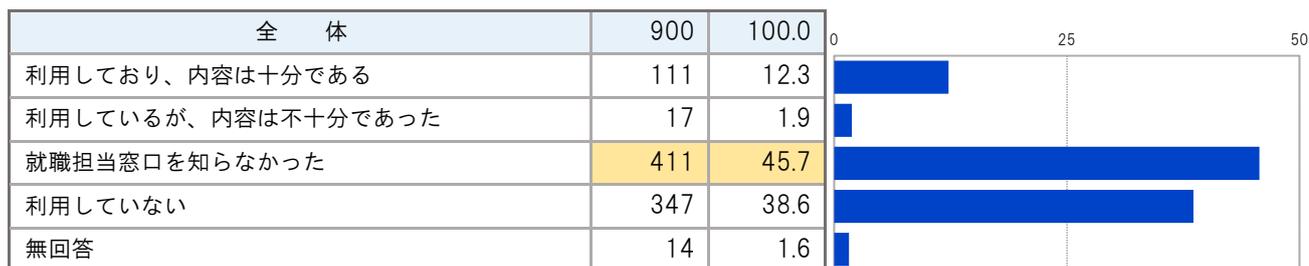
10-3. 就職先を選ぶ際、重視する事〔4つまで回答可〕

高い順番に①自分の知識・能力を生かせる②収入が多い③やりがいがある④安定性⑤福利・構成面が充実している、であった。職種の内容、待遇面の2点を重視していることが見て取れた。前回調査と比較しても重視している項目の傾向は同じであり、特に年度ごとの変化は読み取れなかった。



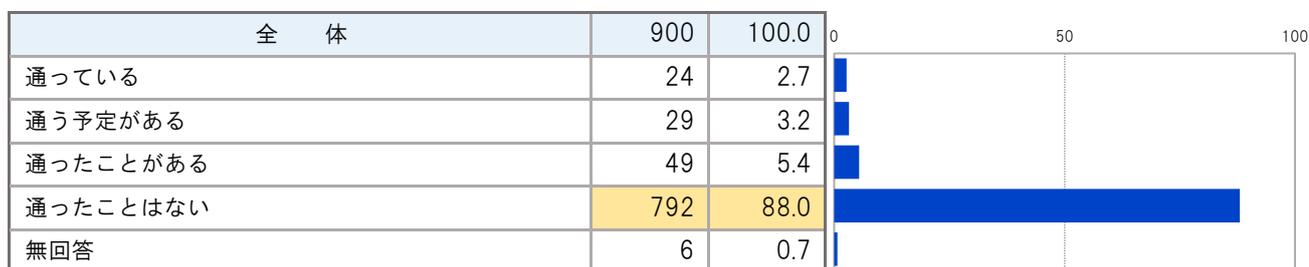
10-4. 就職担当窓口を利用しているか、また、そこからの情報提供は十分なものか

窓口を知らないが45.7%と最も多く、利用していないが38.6%であり、80%以上の学生が利用していないことが分かった。まずは窓口の存在の周知の必要が考えられる。



10-5. 大学外での資格取得等のための通学（ダブルスクール）について

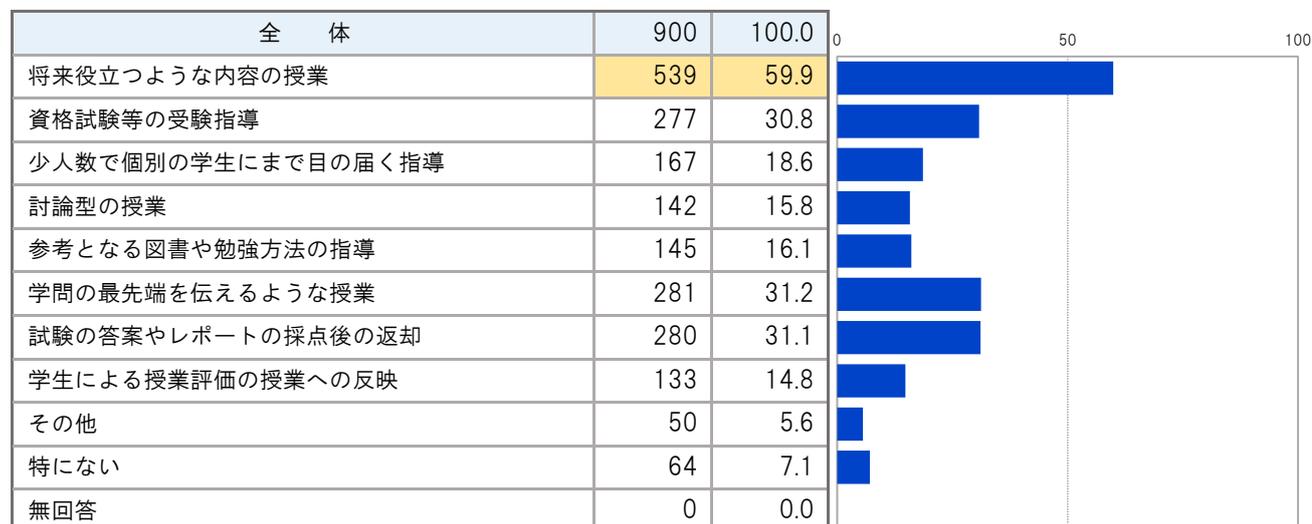
88%の学生が通っていないと回答した。ほとんどの学生がダブルスクールを行っていないことが分かった。



XI. 大学への要望について

11-1. 大学の授業に対するの要望や意見〔3つまで回答可〕

特になし、無回答は前回より11.0%低下し、授業に対する要望、意識が高まったと思われる。将来役に立つような内容の授業が59.9%と最も高く、将来を意識して授業に出席している姿勢が見てとれた。前回調査との比較でも同様の傾向が見られた。また試験の答案やレポートの採点後の返却が前回調査と比較して12.1%と大幅に上昇した。オンライン授業の推進でレポート課題が増加した影響が考えられる。自由記述欄では実習以外の授業におけるオンライン化の推進、継続を求める意見も散見された。



11-2. 大学の教育や学生生活に対するの要望や意見〔3つまで回答可〕

高い順に①教室などの施設・設備の充実②カリキュラムの改善・充実③課外活動関係の施設・設備の充実④就職支援の充実とサービス、設備に関するものが多く、これら4項目は前回調査と比較して全て増加していた。自由記述欄では設備の物理面(広さや、機器存在の有無等)に関する記述が多く見られた。また学生サービスの窓口業務の改善充実が前回調査と比較し8.4%低下した。実際にサービスの改善が行われたのか、あるいは入校規制により利用が減った事によるものか、確認が必要と思われる。



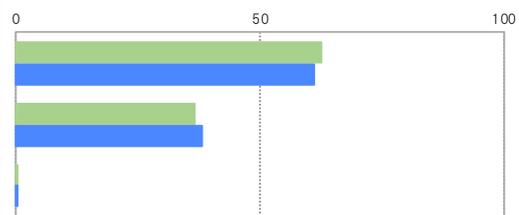
前回（H30年度）調査との比較

以降、前回のH30年度調査と今回の調査についての主だった内容の比較を掲載しています。

【 表とグラフの例 】

【 増減 】
前回に比べて増加の場合は数値のみ、
減少の場合は先頭に▲を付加

項目	前回	今回	増減
男性	62.8	61.3	▲ 1.5
女性	36.7	38.3	1.6
無回答	0.4	0.3	▲ 0.1

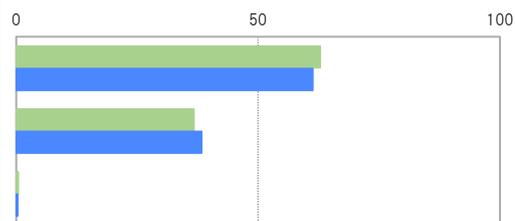


前回・今回ともに数値は構成比(%)

- 緑は前回の数値を示す
- 青は今年度数値を示す

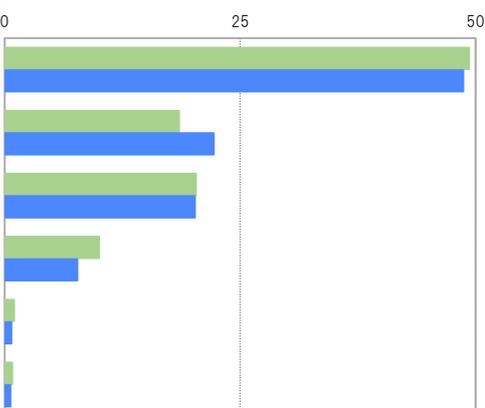
1-3. 回答者の性別

項目	前回	今回	増減
男性	62.8	61.3	▲ 1.5
女性	36.7	38.3	▲ 1.6
無回答	0.4	0.3	▲ 0.1



2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い

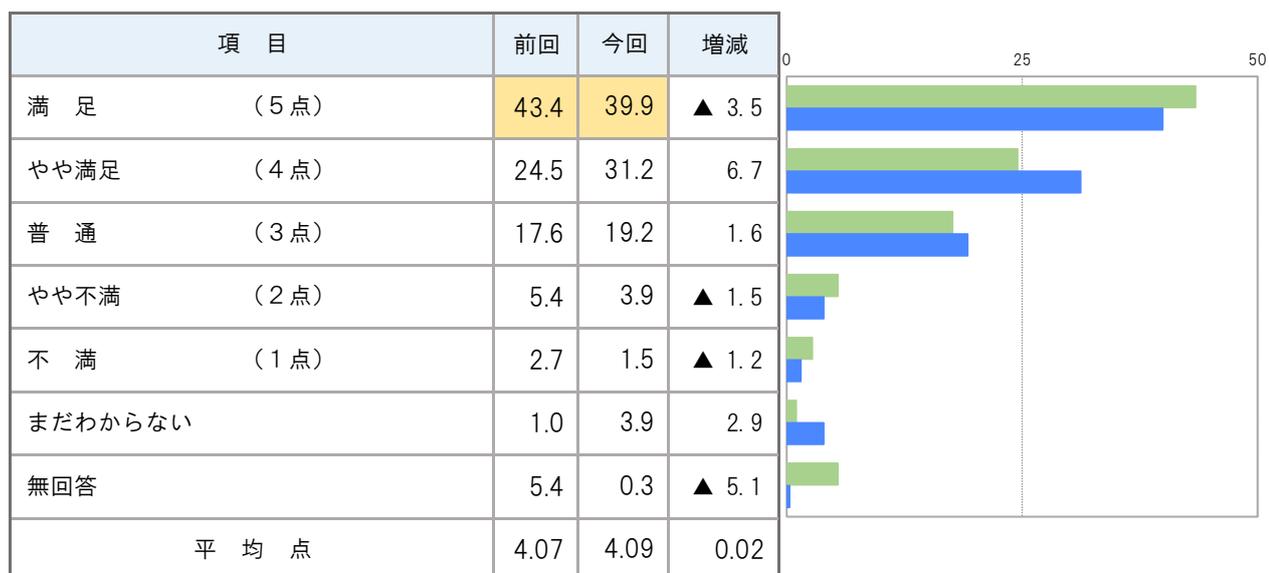
項目	前回	今回	増減
どうしても入学したかった	49.3	48.7	▲ 0.6
ダメなら他大学でもよかった	18.5	22.2	▲ 3.7
本当は他大学に行きたかった	20.3	20.2	▲ 0.1
特に考えていなかった	10.0	7.7	▲ 2.3
その他	1.0	0.7	▲ 0.3
無回答	0.8	0.6	▲ 0.2



3-1. 大学の教育への満足度



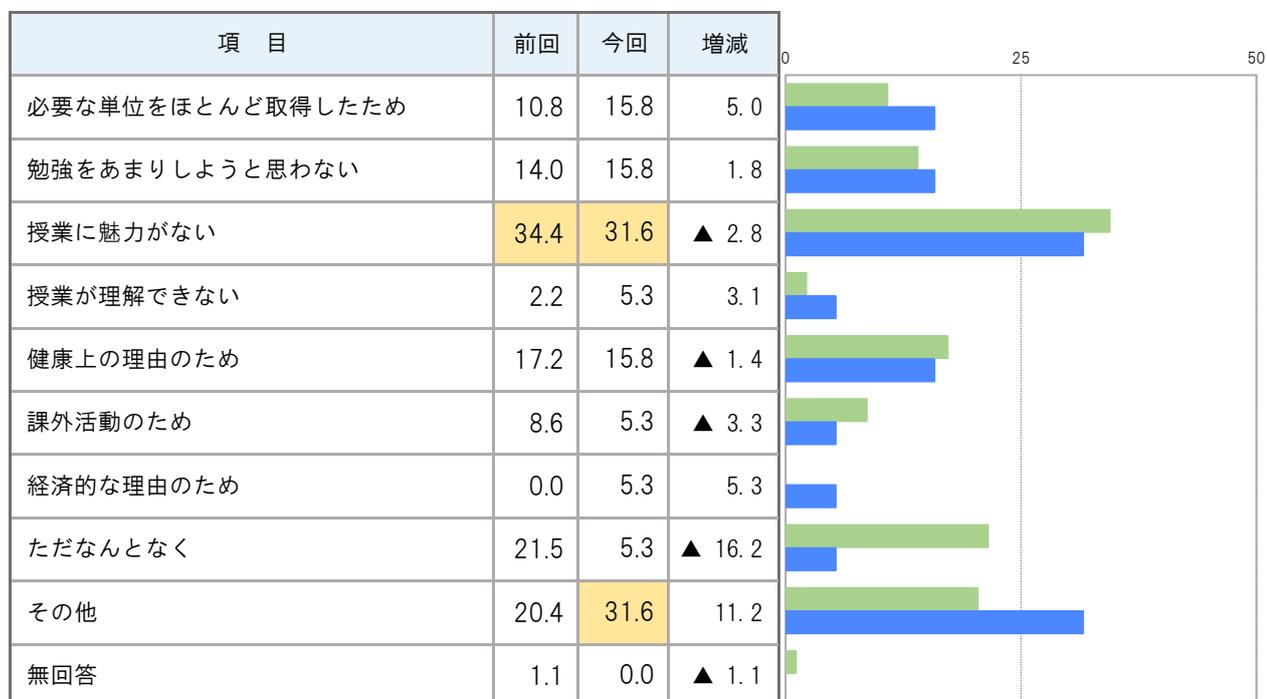
3-2. 大学の研究指導への満足度 ※学部4年生、大学院生のみ回答



3-3. 授業の出席頻度



3-4. 授業に欠席する理由〔2つまで回答〕 ※3-3.で①～③を選択した場合のみ回答



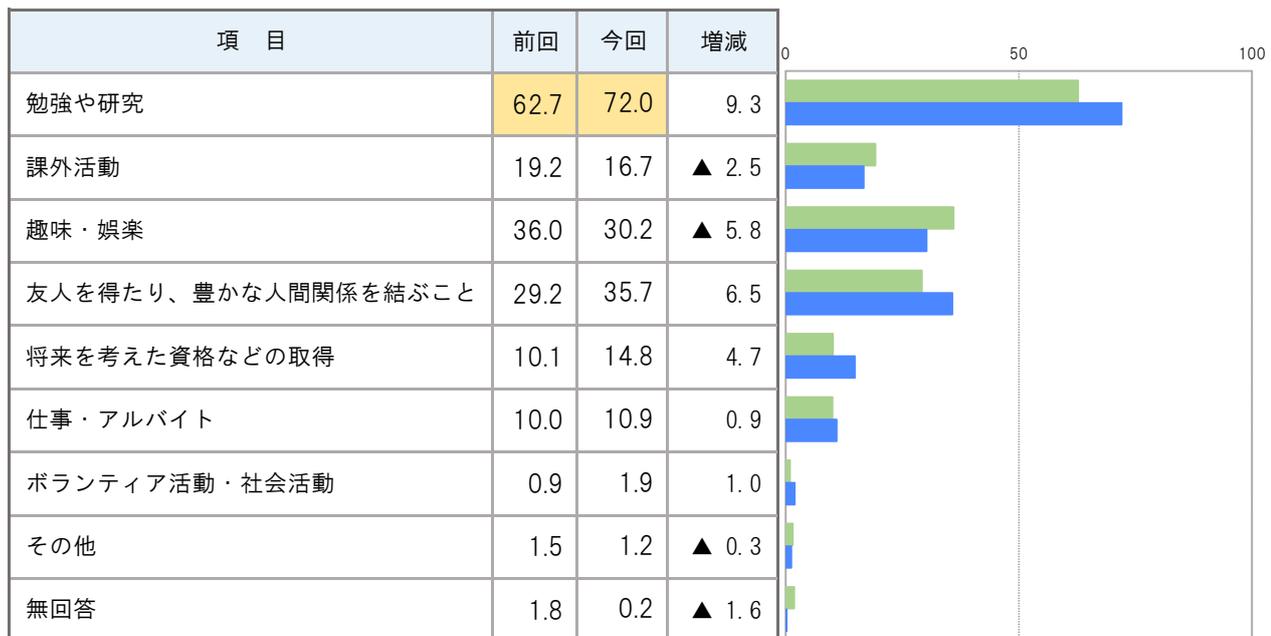
3-6. 授業内容が理解できなかった場合の対処〔2つまで回答可〕



4-3. 大学の窓口対応について



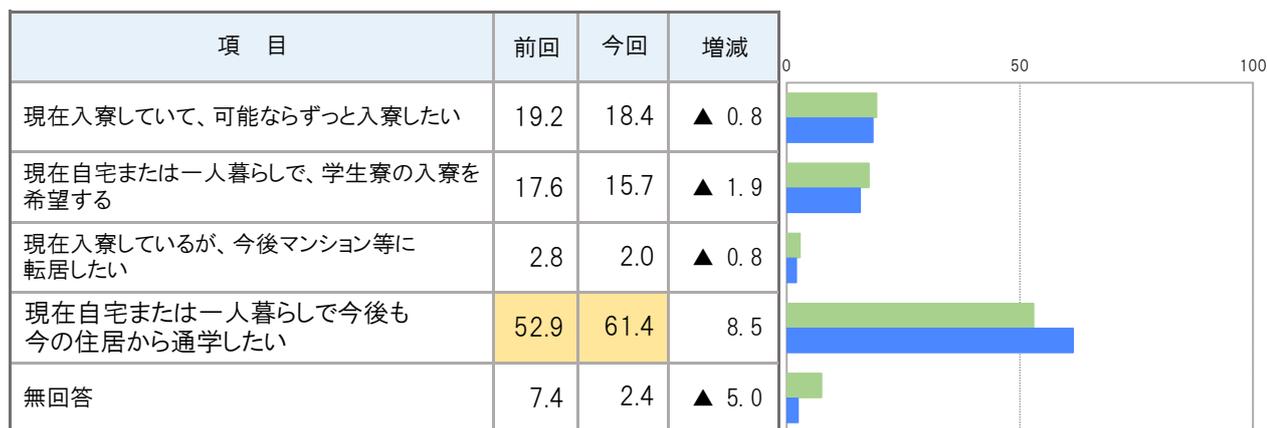
4-6. 現在の大学生生活で最も大切にしている事〔2つまで回答可〕



5-1. 回答者が現在住んでいる住居の区分



5-3. 学生寮について



6-1. 過去1年間のアルバイト経験



6-3. 1週間のアルバイト従事時間(往復の時間を含む) ※6-1. で①～③を選択した場合のみ回答



8-1. 大学で実施している「授業料免除」の申請について



8-2. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金について



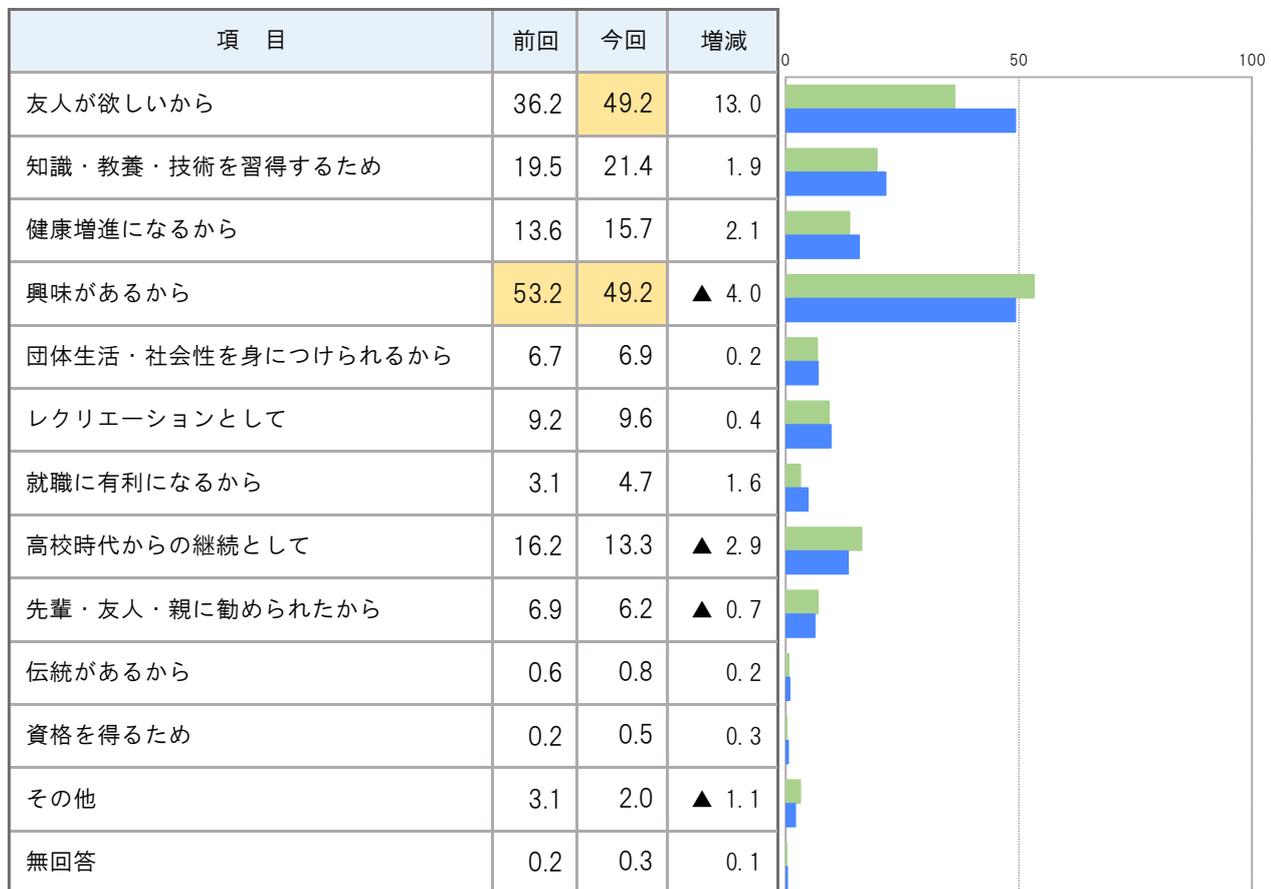
8-4. 奨学金の月額



9-1. 所属している課外活動団体〔2つまで回答〕



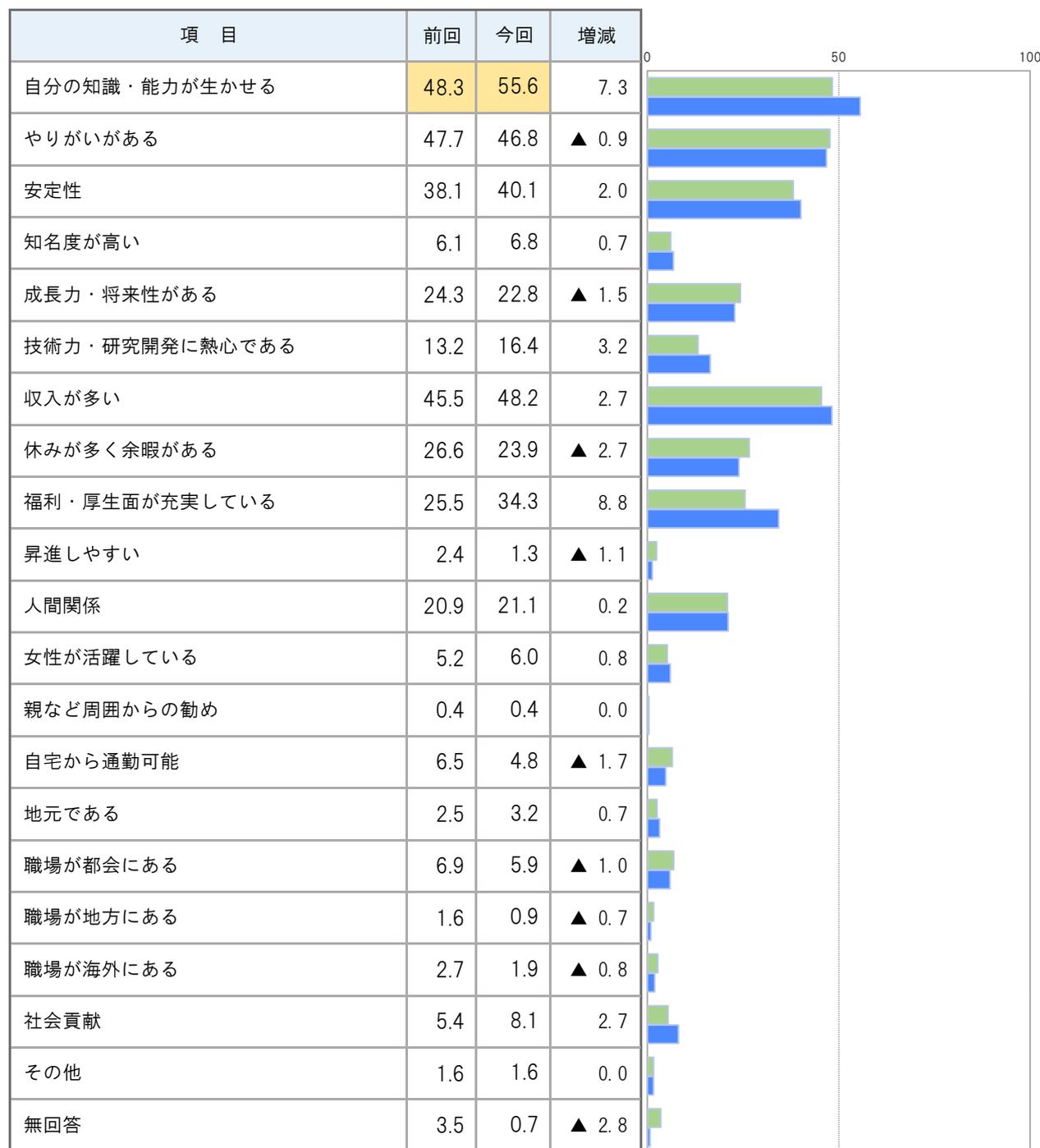
9-2. サークル等加入の理由・動機〔2つまで回答〕 ※9-1. で①～④を選択した場合のみ回答



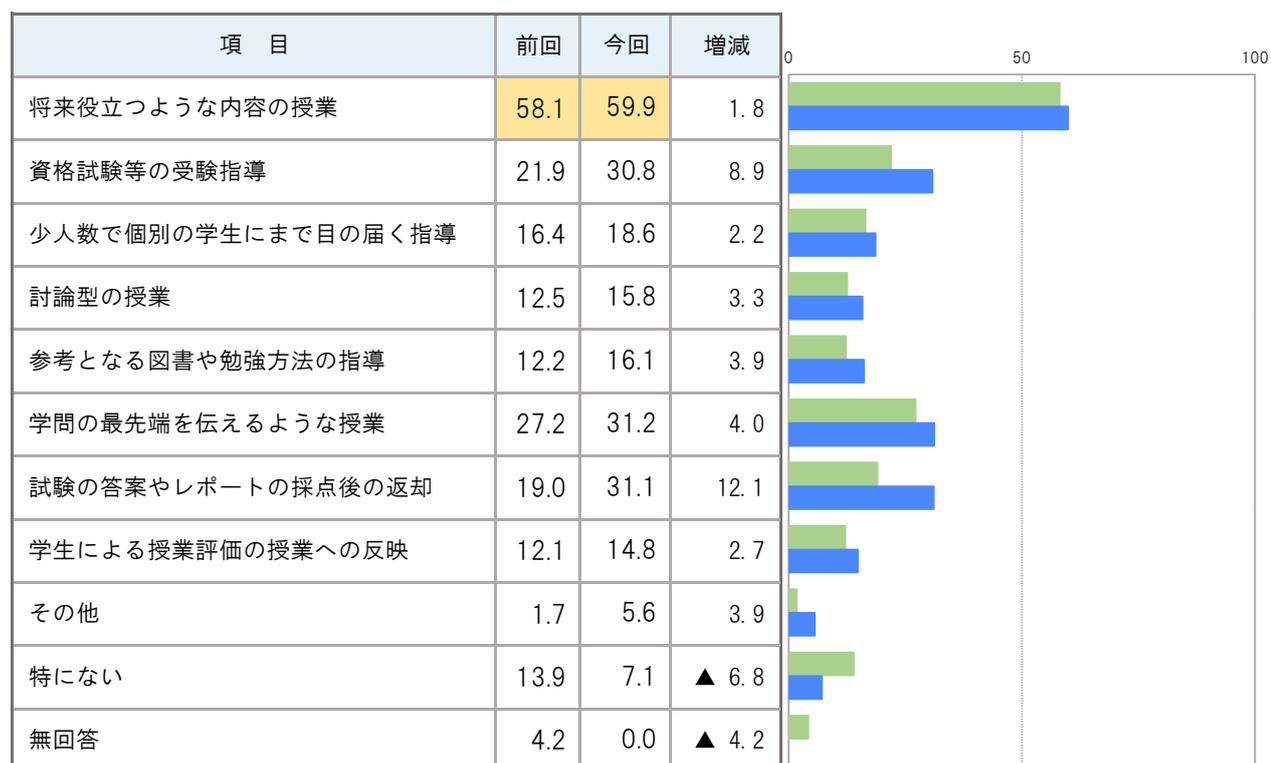
10-1. 卒業後に希望する進路



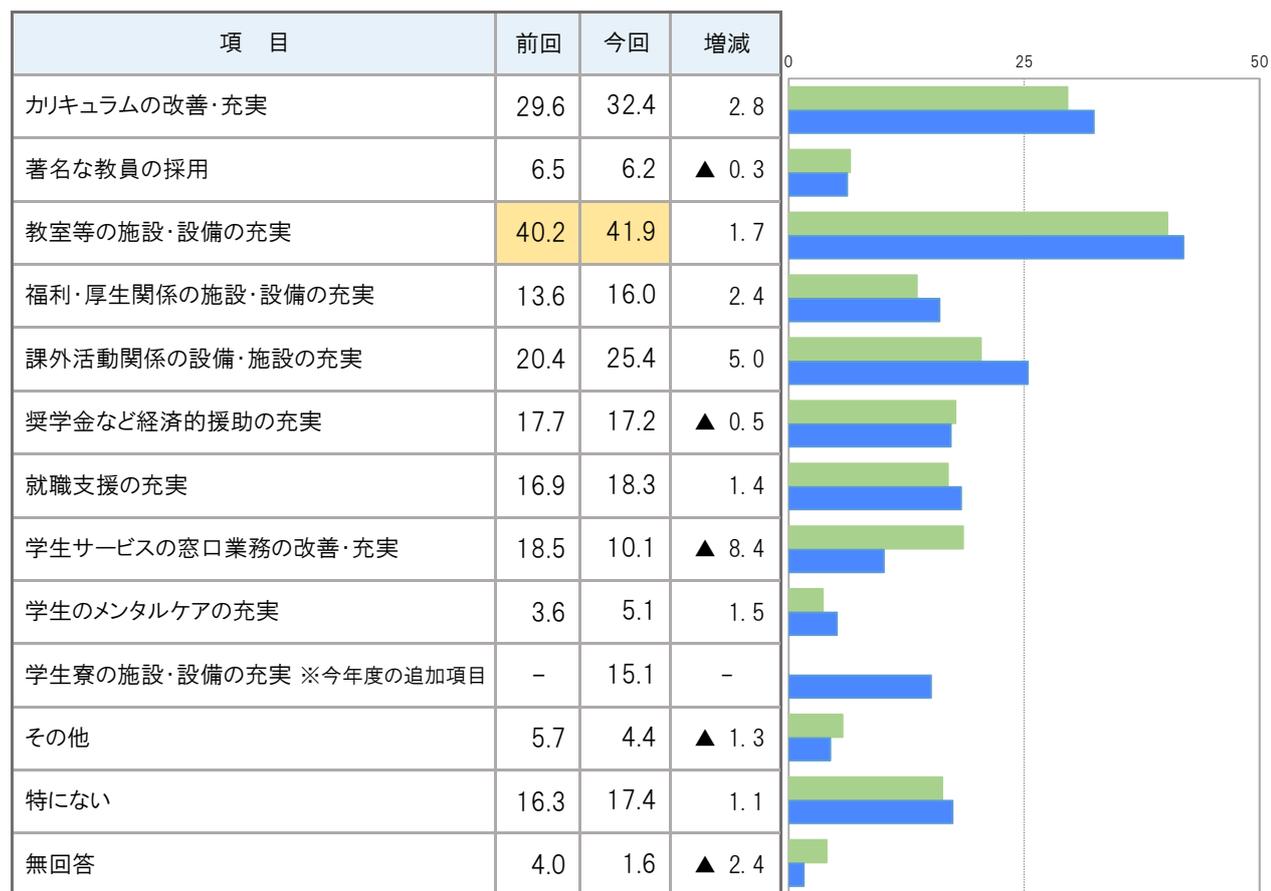
10-3. 就職先を選ぶ際、重視する事〔4つまで回答可〕



11-1. 大学の授業に対する要望や意見〔3つまで回答可〕



11-2. 大学の教育や学生生活に対する要望や意見〔3つまで回答可〕



修学支援調査は、本学学生の皆さんに、有益で快適な学生生活を送ってもらうために、皆さんの意見を聞いて、本学の修学環境や学生支援の充実および改善を図る目的で実施されています。

今回の修学支援調査の内容については、昨年度に計画・決定され、今年度令和 3 年4月～6月にかけてアンケート調査が実施されました。アンケートの内容は、学生の皆さんが、いまどのような生活を送っているのか、修学環境や課外活動の状況など、多岐にわたりました。

前回の修学支援調査は平成 30 年に実施されましたが、今回の調査では紙資源の節約や、回答へ取り組みやすくすることで回収率の向上を目指して、オンラインにて実施致しました。前回同様、大学院生を含めた全学生を対象とし、留学生向けの英語版も作成するとともに、他の学内で実施しているアンケートなどとの内容の重複を避けるなど工夫して設問の項目を前回の80項目超から56項目まで減らしました。しかしながら、2019 年末より始まった COVID-19 のパンデミックの影響で、本学も 2020 年度の入学式は中止、対面での授業実施も制限され、一時期は学内への入構も厳しく制限されるなどの影響から、本アンケートの回収率はふるいませんでした。それでも3割程度の皆さんが回答くださり、有用な情報を収集することが出来たと考えております。

今回のアンケート調査結果および自由記述でいただいた種々のご意見は、本学の修学環境や学生支援の充実および改善を図るための有益な情報となりました。今後、関連部局を中心として具体的な改善策等が整理・検討され、実行に移されることとなります。

最後に、調査にご協力いただいた学生の皆さんおよび教職員の皆さんに心よりお礼申し上げます。

令和3年3月

学生支援委員会

学生広報・修学支援調査小委員会主査 山中 寿朗

委員会の構成メンバー

令和 2 年度学生広報・修学支援調査小委員会

(主査) 山中寿朗、塩出大輔、松本洋平、福岡美香、清水博人

令和 3 年度学生広報・修学支援調査小委員会

(主査) 山中寿朗、市田健介、松本洋平、福岡美香、小野耕志